

底なしの底(There is no bottom to the bottom/ال قاع للقاع..)

1948 年から、私たちは深淵に落ち続けては、再び上昇し、構築、そして変革の旅を始めた。しかし、残念ながら、此処には底と言うものがない。年月が過ぎても、私たちは自由の代償を肉と血で払い続け、限界を知らずに犠牲を払う覚悟を求められ続けている。国家独立の夢のために、殉教者、囚人、負傷者を出さなかったパレスチナの家はなく、私たちは解放を待っている。けれど解放は私たちのスローガンで、まだ訪れていない。忍耐は耐え忍ぶ者となり、その者も去り、残された私たちは、孤独と欠乏、抑圧と裏切り、耐えがたい状況を強いられている。

ナクバ以来、戦争は終わらず、インティファダも終わりが無い。14 年で 6 つの戦争を経験したなど信じられるだろうか。我々は戦争を代行する世界で唯一の契約者なのだろうか。私たちはすべての兵器の試験場になっているようだ。私たちの運命はこの忌まわしい争いの中で生き、死ぬことなのだろうか。土地は消え去らず、その場所に永遠に存在するが、私たちと占領者、そして地球上のすべての人間は 100 年後には死者となる。今日生まれた者もその運命を待つことになる。彼らも苦しみ、そして去る。

パレスチナ人としての私たちの運命は地球全体に散らばることなのか？残る者は、殉教するか、逮捕されるか、戦争で負傷するか、追放され、故郷を夢見ながら無念のまま死ぬことになるのか？毎日、テレビ画面の前で何百人も虐殺されているのを見ているが、世界は何も行動を起こさない。数少ない自由な人々だけが、私たちの気持ちを理解し、私たちと連帯し「Free Palestine」「Stop the War on Gaza」と叫んでいる。

2009 年以來その叫びは止まりません。戦争から息をつく暇もなく、新しい戦争が前の戦争よりも激しく始まり、シーシュポスの岩のように戦争は続く。毎回同じ破壊、同じ死、同じ結果が繰り返さる。160 日間、私たちはこれまでにない壊滅的な戦争にさらされてきた。数千人の子供、女性、高齢者が殉死した。今日、保健省は殉死者の数が三万一千を超え、十万人以上が負傷し、数千人が拘束されていると発表した。そして、保健省の統計は病院に到着した遺体に基づき、自宅の瓦礫の下に残された数千人、集団墓地に埋められた人々、行方不明者は、発表された数には含まれていない。誰が死んで誰が生き残ったのか、神のみぞ知るのだ。

私がこの世界を認識するようになって以来、同じニュース、同じコメント、無意味なフレーズばかり聞いてきた。「アラブの国はどこにいるのか？」このフレーズは私を苛立たせる。ナクバの始まりからアラブ諸国に訴えて来たが彼らは何も応えなかった。私たちは別の解放の手段を見つける必要がある。アラブや占領者ではない解放のための他の手段を。特にこれらの虐殺の後、土地の占領、この懲罰と憎しみの後、1948 年以來続く私たちへの憎悪の後、占領者が犯罪者で殺人者であることを認識する必要があるのか？誰も彼らの暴力から免れることはなかった。子供も老人も女性も、木も石も、さらには空気や土も放射性ウ

ランで汚染された。私たちは新しい言葉、新しい考えが必要であり、それを通じて私たちが持っているものを集め直し、私たちの自由をどのように獲得し、型にはまらない方法で権利を取り戻すかを考える必要がある。そして私たちの言葉を新たにするためには、政治的、組織的な状況全体を刷新する必要がある。

2024年3月10日

アリー・アブー・ヤースィーン

訳 藤田ヒロシ

(2024.8.30 改定)